



▲卒業証書を授与される卒業生

中 学校卒業式

それぞれが新たな一歩へ

只見中学校の卒業式は3月13日に行われました。式では藤田信一校長が38名の卒業生一人一人に卒業証書を手渡し、来賓の方からはこれから新たな一歩を踏み出す卒業生へ祝辞が述べられました。

卒業生を代表して加藤正靖君が「この3年間は夢のように過ぎ、寂しいが卒業できることに喜びと期待を寄せています。先生や家族、地域の皆さんに温かく見守って頂き今日の日を迎えられました。いつかは恩返しをしたいのでそれまでまた温かく見守ってください」と答辞を述べました。

小 学校卒業式

町立小学校の卒業式は、3月20日に各学校で行われました。

今年の卒業児童は只見小学校17名、朝日小学校12名、明和小学校15名の計44名で6年間の学校生活を終え、4月からはまた新たな気持ちで中学校での生活を始めます。



▲別れの歌をうたう卒業生(明和小学校)



▲保育証書を授与後、「保育所まで毎日送ってくれてありがとう」「小学校に行ったら勉強を頑張ります」などお父さんやお母さんに感謝の言葉や抱負を言いました



▲元気な返事をして保育証書を授与(朝日保育所修了式)

保 育所修了式

保育所の修了式は3月28日に各保育所で行われました。

只見保育所9名、朝日保育所11名、明和保育所11名の計31名が3月で保育を修了し、4月から小学1年生になります。

ブナセンター講座 「雪食地形と植生」



3月8日(土)に、東京学芸大学名誉教授で長年、地形や地質、気象、植生など様々な観点から山の景観をひも解く研究をしておられる小泉武栄先生を講師にお招きし、ブナセンター講座を開催しました。講座には、前日から降り続いていた大雪にもかかわらず64名の方が参加され、只見町の自然を特徴づける雪食地形の成り立ちについて、様々な視点から解説していただきました。

まず、世界的に見ると日本は雪が多く、風が強い国で、この気象によって生み出された多雪環境が植物の生育に影響を与え、本来は森林になるはずの山地に裸地や草原、低木林をつくりだします。また、底雪崩そこなだれに含まれる鋭くとがった岩屑がんせつは、岩盤を削り取り、筋状に縦じまが入った山肌、いわゆる雪食地形をつくり出します。雪食地形は、日本の特色ある気候が生み出した景観なのです。

続いて、普通はブナ帯の上には亜高山帯の針葉樹林が広がりますが、只見町の山地の様に、針葉樹林が欠けて高山帯に似た草原や低木林が広がる「偽高山帯ぎごうさんたい」についてお話があり、このことについて研究者たちは様々な仮説を提案され今も議論をしているが、まだ要因がわかっていないという事でした。

「日頃、目にしている景色をあたりまえと思わず、なぜそうなのかを考えてみてほしい」と小泉先生は最後に締めくくられました。様々な視点を変えて見ることにより、只見町の何気ない風景もその価値が見えてくるはずです。



自然観察会「冬のブナ林を歩く！」

3月9日(日)は前日まで続いていた吹雪が嘘のように止み、快晴に恵まれ平成25年度最後の自然観察会「冬のブナ林を歩く！」を開催する事が出来ました。前日のブナセンター講座で講師を務めた小泉武栄先生にも同行いただき、28名が参加されました。

はじめに伊南川の右岸から南部に広がる雪食地形の山並みを観察し、栖戸の観察の森で鈴木館長からこのブナ林の成り立ちについて、小泉先生から他の地域との比較についてお話を頂きました。その後参加者は思い思いの方法で冬のブナ林を堪能され、昨日樹木に積もった雪が時折塊となり降ってきましたが、新雪の上に足跡を残したり、寝転がったり、木立の隙間から青空を見上げたりと、楽しい観察会となりました。

